

2018年オブザーバーの手引き

2018年FIMトライアル競技規則については、ツインリンクもてぎ2018年FIMからトライアル世界選手権第2戦ストライダー日本グランプリ情報サイトをご参照下さい。また、下記抜粋項目については特にご注意下さい。

1. 各クラスの色分け

- ・トライアルGP（赤ゲート使用）・女子GPクラス（紫ゲート使用）
- ・トライアル2（青ゲート使用） ・女子トライアル2（黄ゲート使用）
- ・125カップ（緑ゲート使用）

☆昨年より、選手はビブを使用せず、ウェアにゼッケンを直接貼り付けるタイプになっています。（上記カラーを参照）

2. アシスタントは昨年同様1名でグリーンビブです。またアシスタントは、自分の担当するライダーがセクションまたはコリドーにいる場合で、セクション・オブザーバーの許可を得たうえでセクション内に立ち入ることが出来る。

3. オブザーベーション・エンクロージャー

- ・ライダー、アシスタント、レースディレクション・メンバー及びプレスのみがエンクロージャー境界内に立ち入ることが認められる。

4. チーム・マネージャー、マニファクチュアラー・マネージャー（イエロービブ）

装着者はエンクロージャー内に黄色いテープで仕切られたチーム・エンクロージャー内まで立ち入ることが認められる。

<採点上の注意点について>

☆今年も各セクションにタブレット端末が配され、扱う担当者をスコアラールと称し、バック・アップのパンチ・カード方式はなくなりました。バック・アップの方法についての詳細は現在確認中です。

1. セクション境界線のテープをカットした場合や、直接杭を倒し修繕しなければならない場合は減点5点ですが、テープのたるませや、それに伴って杭が傾いたりあるいは倒れて修正を必要とした場合でも、減点は取れない。
2. ライダーまたはマシンがゲート・マーカーに直接触れてしまっても5点にはなりません。結果としてマーカーを移動したり、倒してしまった場合や破損しオブザーバーが修正しなければならない状態は減点5点となります。（必ず修正を行うこと）
3. 規制ゲート（赤・青・緑・紫・黄）自クラスのゲート以外は進入不可（進行方向に関わらず）減点5点。またゲートの上空通過（タイヤの中心で判断すること）も同様です。
4. ライン・クロスについても、MFJ国内規則と判定が異なります。自身の通過したタイヤの軌跡に対して、前・後輪のいずれか片方でも交錯した場合に減点5点となります。

＜オブザーバーの心得＞特に重要です！

☆採点については、厳しく、あるいは甘く採点するのではなく、正しく客観的に判断することが大切です。確信が持てない場合や迷った時は、ライダーに有利な判定をすること。一日を通して、同じレベルですべてのライダーに対して公平に判断すること。また、セクション内で判定が異なったり、判定に関して疑問が生じた場合、速やかに集合してメインオブザーバーを中心に採点を確認し、連携とスピード感を持って勤めて下さい。また、無線機から伝わる情報も共有して下さい。

1. 笛の吹き方・・・すべてのペナルティーはオブザーバーの笛によって提示され実行される。失敗の時（減点5点）は、即座に強く長く鳴り響かせること。
2. 何らかのトラブルで、セクションが使用できない状態になった場合、速やかに本部に連絡するとともに、オブザーバーは閉鎖開始時刻と閉鎖終了時刻及び各々のライダーのゼッケンと待機時間を記録すること。（競技を再開する時に重要な資料となり、選手にとっても持ち時間の加算になることがありますので、回収・確認できるように記録して下さい。）
3. イエローカードはライダー、アシスタント、チーム・マネージャー、マニファクチュアラー・マネージャーに出すことができます。イエローカード等追加のペナルティーを出した時は、無線にて本部に一報を入れ、進行員を通じて速やかに所定の報告書提出してください。また報告書にはセクションナンバー、時間、ゼッケン、ペナルティー内容、オブザーバーのサインを書き込むこと。
4. コリドー及びその周辺もオブザーバーの監視下です。不正の無いようしっかりと管理して下さい。

☆ノン・ストップルールについては、前日にセミナー（講習）を行いますので判定に不安な方は必ずご参加下さい。